

# 公表 事業所における自己評価結果

事業所名 **りはくる**

公表日 **令和8年3月20日**

回収率 **83%**

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 訪問支援に使用する教具教材は適切であるか。	5	0	補助つきのハサミなどを提案する時は、実物も提示しながら先生に紹介している	
	2 利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	複数名の職員かつ複数の専門職が配置されている	
業務改善	3 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	定期的な訪問支援会議を実施することで、法人として統一した質が保てるようにしている 訪問支援会議やケース会議を定期的実施し、支援目標の設定と振り返りを行っている	
	4 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0		
	5 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	業務改善、日々の問題解決に向けたコミュニケーションの機会が必要。 定期的に訪問支援会議を実施している 訪問支援会議の中でサービス実施に関し意見交換を行い、書面作成やサービス実施方法の改善を定期的実践している	訪問支援会議などを活用し、職員同士の意見を伝え合う機会を設けていきます。
	6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3		必要に応じて今後実施を検討していきます。
	7 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	個人が希望する研修費を会社が補助する制度がある。訪問支援員も含めた法人内研修を、月一回以上の頻度で開催している。 月に1回職員が持ち回りで勉強会を実施している	
適切な支援の提供	8 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	5	0	間接的評価でお子さまのニーズをぶんせきし、面談等を行いながら保護者のニーズを整理し、計画を作成している	必要に応じて直接支援も実施していますが、訪問先施設の状況に合わせて適切な支援が選択できるよう、来年度はOJTによる訪問支援員の教育を実施していきます。
	9 保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	計画作成時には会議等から支援に関わる職員が参加し、職員間で検討している	
	10 保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	5	0	訪問先施設や担任と定期的に懇談を実施し、教育支援目標とつながりのある計画を作成している	
	11 保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	訪問支援実施毎に、都度計画の目標を確認し、計画に沿った観察と評価を日々行っている	
	12 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	必要に応じてフォーマルな検査が実施できる体制(人員配置)となっている 専門職が必要に応じて感覚運動や言語に関する評価ツールを用いて状態評価を行っている	
	13 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	支援内容の中に、訪問先施設の担任等と支援方法を検討していくこと等、目標に沿った支援内容や方向性を記載している	
	14 保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	毎回の記録で確認している。訪問記録にも必ず毎回記載している。 訪問支援実施前に毎回計画内容を担当者が確認してから訪問している。計画に沿った内容について評価している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	支援開始前には職員間で役割や前回までの評価や担任との懇談内容、保護者からのニーズ等を共有し、連続性のある支援実施を心がけている	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	支援終了後、訪問支援に関わる職員間で実施内容の共有を行い、評価や次回へ向けた課題を検討している。	
	17 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	5	0	一方的な助言にならないよう、評価者ではなく、支援者になれるよう、訪問先の理念や支援手法の助けになれるよう心がけている。このことを、常に訪問支援会議で見直している。 訪問先施設での支援目標や支援方法を伺った上で、訪問先に沿った支援内容をご提案している	
	18 毎回の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	毎回訪問記録を作成し、保護者に書面での報告を行うとともに、必要に応じて訪問先にも訪問記録を共有して支援の振り返りを共有している	
19 定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	定期的に保護者との面談を実施し、ニーズや課題の整理を行い、訪問先が支援において話し合っている方向性や支援方法を共有していただき、実状に沿った計画となるよう見直しを行っている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	日々訪問支援に関わっている職員および児発管が参加している	
	21	地域の保健、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	事業所のみで抱えることがないよう、支援の状況に応じて関係機関と連絡を取っている	
	22	就園・就学時の移行の際には、保育所等や学校との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	必要に応じて就学時にこれまでの支援内容を書面や懇談等で共有しており、継続して支援を利用されている児に関しては切れ目のないよう引き継ぎを行いながら実施している。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	4	1		今年度は全職員を対象に外部研修を実施しました。今後も必要に応じて外部からの助言や研修の実施を検討していきます。
	24	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	5	0		
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	書面での支援内容の報告とともに、定期的に面談を実施し、お子さまの今の状況や今後の見通しやニーズについて共有している。	
保護者等への説明等	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2		今後、必要に応じて検討をしていきます。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時や内容変更があった際には、書面や口頭でお知らせと説明を行っている	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	5	0	新規の訪問先施設に訪問する際や年度初めに訪問支援を実施する際は、保育所等訪問支援の目的やサービス利用に至る流れを訪問先に説明している	
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	本人または保護者と面談を行う機会を設けたり、主訴について何う書面を記入していただいている	
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	5	0	計画更新時には、計画内容について説明し、同意を得ている	
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	定期的に電話、面談等でお話しする機会を提案し、ご希望に沿って相談をお受けできる機会を設けている。	
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4		今後、必要に応じて検討していきます。
	33	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	ご希望がある時はいつでも面談を実施ができることをお知らせしたり、定期的に相談のご希望があるかを各利用者に確認するとともに、来所時にお声がけをして申し入れがしやすい環境を整えている	
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	事業所ホームページにて職員がブログを掲載している	
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
訪問先施設への説明等	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	文字盤、絵カードなどお子さまが発信しやすい方法を用いてコミュニケーションを図っている。保護者とのやりとりでは必要に応じて電話やメールなどやり取りの手段を選択していただいている。	
	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	5	0	定期的かつご意向に沿って懇談の時間を設け、担任の先生から提示いただいた課題に対する支援方法について話し合っている	
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	5	0	訪問先の状況に合わせて対応しています。その思いが訪問先に伝わるようなコミュニケーションを心がけています。お子さまの観察や評価終了後に、訪問先の状況に合わせて懇談する時間を設けている	
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	5	0	ご家庭の状況に合わせて、面談、家庭訪問、電話など様々な方法で実施しています 書面にて実施内容の報告を行うとともに、電話や面談で報告している	
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
非常時等の対応	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	5	0	訪問先施設の理念や関わる先生方のご意向を伺いながら、専門職が多視点から評価を行い、支援に役立つご提案ができるようにしている	
	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0		
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0		
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0		
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	1	現在、該当する利用者がいない	必要に応じて支援計画へ記載していきます。

# 公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	りはくる		
○保護者等評価実施期間	令和7年10月20日		～ 令和8年1月31日
○保護者等評価有効回答数	(対象者数)	183	(回答者数) 99
○従業者評価実施期間	令和7年10月20日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	令和7年11月1日		～ 令和8年1月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 25
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	複数の専門職を配置した専門的な支援体制がある。	複数の専門職が配置されており、必要に応じて評価ツールを用いた状態評価を実施している。	担当者に一貫性を持ちながらも、必要に応じて他職種に意見を求める体制にします。これによって、支援の継続性を保ちつつ、多面的な評価も実施することができます。
2	訪問先施設との協働的なアプローチを行なっている。	訪問先のご意向を伺いながら、日々の支援の一助になる提案を行っている。	訪問先とのカンファレンスを通じて、より実践的な支援方法の共有を進める。
3	保護者のニーズに沿った相談体制を整えている。	書面での報告に加え、定期的に面談を実施している。	今後も保護者が相談できる環境を整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の業務改善や問題解決に向けた、職員間のコミュニケーション機会が不足している。	定期的な会議は実施しているものの、日々の細かな問題解決に至っていない可能性がある。	会議の場をさらに活用し、職員同士が積極的に意見を伝え合える機会を意識的に設けていく。また、1つの訪問先に関わるスタッフが必要以上に複数名になることで情報が断片的となり、課題の核心がつかみにくくなっている。来年度は担当者に一貫性を持ちながらも、必要に応じて他職種に意見を求める体制にします。これによって、支援の継続性を保ちつつ、多面的な評価も実施することができます。
2	家族支援プログラムの実施や、保護者同士が交流できる場の提供が不足している。	定期的な家族支援は実施しているが、保護者同士の交流の機会が少なかった。	保護者のニーズを把握しつつ、必要に応じて家族向けの研修や保護者同士が交流できる機会について検討していく。
3	第三者による外部評価の機会が少なく、客観的な評価機会が少ない。	第三者による外部評価を受ける機会が少ない。	必要に応じて、第三者委員会による外部評価の実施を検討していく。